

新宿小学校の過大規模校化及び宮崎小学校の大規模校化を解消するための取り組みについて（意見を聴取するための基本案）

I. 現状と課題

新宿小学校は、将来、過大規模校化（31学級以上）が予想され、体育館・グラウンド・特別教室利用の面から制約が生じ、学校運営に支障が生じる。また児童一人ひとりの把握が難しくなるなどの課題が今後発生することが考えられます。

宮崎小学校は、既に大規模校化（25学級以上）しており、余裕教室等がないため、習熟度別・課題別学習指導・少人数学習指導などの学習形態が組みにくい、また運動場等が手狭であるため、運動種目や休み時間中の行動などスペースの制約が生じています。

年度		H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
新宿小 (実教室数 27 プレハブ 4)	児童数	757	808	870	997	1,094	1,201	1,344
	学級数	25	24	25	29	31	33	37
	教室過不足	2	3	2	-2	-4	-6	-10
宮崎小 (実教室数 29 転用 2)	児童数	934	922	937	936	974	984	977
	学級数	27	25	25	26	27	27	27
	教室過不足	2	4	4	3	2	2	2

*学級数 21年度は5月1日実数、22年度以降は年度当初の参考推計（新たな開発を含む）

II. 基本案

1. 基本案の内容

上記1の、問題を解決するため、既に一部地域において学区調整を行ってきたところですが、改善するには不十分な状況にあります。

そこで、次の基本案の内容を実施することにより、新宿小学校、宮崎小学校併せて寒川小学校の適正規模校化を図りたいと考えております。（※基本案は、合意形成に係る協議の基本案であり、皆さんの意見等を聴取しながら最善の方策を検討していきます。）

- 1) 新宿小学校について、新宿小学校区である神明・出洲港地区を寒川小学校学区へ学区変更します。
- 2) 新宿小学校区である神明・出洲港地区児童を寒川小学校区として受け入れることにより、寒川小学校が大規模校化しないように、寒川小学校の一部学区（末広2～5丁目、稲荷町、千葉寺町）と大規模校である宮崎小学校の一部学区（千葉寺町）を学区とした新設校を設置します。

新設校を設置する場合には、平成26年度の開校を目指してまいります。

2. 基本案実施後の各学校の児童数等（推計）

平成26年度の各学校の児童数、学級数、不足教室数は次のとおりです。

- 1) 新設校 : 550名程度、17学級程度、 —
- 2) 新宿小学校 : 850名程度、26学級程度、教室不足なし
- 3) 寒川小学校 : 650名程度、21学級程度、教室不足なし
- 4) 宮崎小学校 : 800名程度、22学級程度、教室不足なし

＊推計値であるので、変動することもあります。

＊寒川小、宮崎小の適正規模を図るとともに、新設校を適正規模（12～18学級）が維持できる学校規模とした。

3. 実施スケジュール（案）

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
新宿小学校 (神明・出洲港地区)				(段階的な学区調整) 新1年生	新1年生	新1年生及び 4～6年生
寒川小学校						新設校と分離
新設校						供用開始
宮崎小学校						新設校と分離